

題目:補償の交換フレームがリスクを伴う忌避施設の受容に及ぼす影響—Taboo trade-offs
の緩和策の検討—

氏名:飯野麻里

指導教員:大沼進

リスクを伴う忌避施設の受容について考える際には、リスクとベネフィットについて様々な要素から評価し、その総合的な評価に基づき交換可能性を考えようとするのが一般的である。しかし、そもそもリスクとベネフィットを天秤にかけて交換するという考え自体が拒否される場合がある。それが **taboo trade-offs** である。リスクを伴う忌避施設の建設を巡っては、リスクを引き受けることと金銭の交換がタブーであると見なされる場合がある。しかし金銭的補償に意味がないというわけではない。補償をどのような枠組みで提示するのが重要なのである。そこで本研究ではリスクを伴う忌避施設を立地する際、どのようなフレームでベネフィットを提示した場合に **taboo trade-offs** と見なされるのかを検討するために、二つの実験を行った。そのどちらも仮想シナリオを用いて、リスクを伴う忌避施設に対する補償のフレームを操作し、社会的受容などについて検討した。施設を建設することのリスクに対して、社会福祉の向上を補償として提示した福祉条件、金銭を補償として提示した経済条件、以上の二つの条件との比較のため、何の補償もない統制条件の三つのフレームを用意し条件間の差を検討した。実験 1 では、有意な差はなかったものの、福祉条件で他の条件に比べて施設の建設が受容されていた。また、受容の規定因を検討したところ、感情の影響が最も強かったが、リスクベネフィット評価よりもタブートレードオフの方が強く受容に影響を与えていた。このことから、リスクとベネフィットを交換可能と考えて総合的に評価するよりも、交換を認められない価値の交換と思うかどうかの方が重要である可能性が示唆された。実験 2 では、既に決定したのではなく、施設を建設する場所をこれから話し合うという枠組みに変更して実験を行った。その結果、実験 1 で見られた福祉条件で施設建設の受容が最も高いという傾向が消え、タブートレードオフから受容への影響も弱まっていた。しかし、どちらの実験でもタブートレードオフと世代間公正に強い関連が一貫して見られたことから、将来世代への影響は交換が認められない価値として考慮される必要性が示唆された。